

## 3年 音楽科実践事例

1. 教科	音楽科
2. 学年	第3学年
3. 題材	作曲者の思いを感じとり、オーケストラの響きを味わおう。 【教材】交響詩「我が祖国」より、ブルタバ（モルダウ） 作曲：ベドルジハ・スメタナ（教育芸術社）
4. 目標	○旋律を中心に要素の働きと、オーケストラの響きや曲想との関わり、作曲者の思いや楽曲の背景となる文化・歴史に関心を持ち、主体的にブルタバ（モルダウ）を鑑賞する。 ○旋律を中心に要素の働きを知覚・感受し、曲想との関わりを理解する。 ○ブルタバ（モルダウ）のよさや美しさに気づき、味わったことを、根拠をもって批評する。
5. 学習指導要領との関連（指導事項や内容）	中学校学習指導要領第2章第5節音楽[第2学年及び第3学年]の2内容「B鑑賞」（1）のア「音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。」イ「音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞すること。」を踏まえ、本指導事例では楽曲の特徴を理解し、そのよさや美しさを考えながら鑑賞をする。 また、[共通事項]の「旋律」に着目し学習を展開する。 さらに第3「指導計画の作成やと内容の取扱い」2の（7）のア「生徒が自己のイメージや思いを伝え合ったり、他者の意図に共感したりできるようにするなどコミュニケーションを図る指導を工夫すること。」を踏まえ、楽曲のよさや美しさを考えて鑑賞する過程に、学級全体での意見交換、ワークシートへの記入などを適切に取り入れることによって鑑賞の学習の充実を図る。
6. 重視した言語活動	○鑑賞を通して、しっかりと音楽を味わい、音楽用語を正しく理解し、正しい言葉で表現する。 ○味わったことについて、知覚・感受したことを根拠に自分の言葉で批評する。

### 7. 指導にあたって

これまで「春」（ヴィヴァルディー作曲）や「交響曲第5番ハ短調」（ベートーヴェン作曲）を通じて、様々な楽器の音色や音楽の構成について学んできた。本題材で

は、旋律の変化を中心に、音楽を形づくる要素の働きを知覚・感受し、曲想との関わりを理解させる際、作曲者の思いなど文化的背景を理解させることで、よりオーケストラの美しさを味わわせたい。

これまでの鑑賞の活動では生徒が楽曲を聴く中で、教師が楽曲の形式や構造について提示し、理解させるといった教師主体の指導に偏りがちだった。

本題材では、授業の中に生徒に知覚・感受したことを、言語活動を用いて思考・判断する場を設け、生徒が楽曲をどのように味わったかについて、旋律や構成と曲想の関わりなど、自分たちで、気づき感じたことを根拠として批評する力を伸ばしたい。

## 8. 題材の評価規準

	音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
学習活動における 具体的評価規準	旋律を中心に要素の働きと、オーケストラの響きや曲想との関わり、作曲者の思いや楽曲の背景となる文化・歴史に関心を持ち、主体的にブルタバ（モルダウ）を鑑賞している。	①旋律を中心に要素の働きを知覚・感受し、曲想との関わりを理解している。 ②ブルタバ（モルダウ）のよさや美しさに気づき、味わったことを、根拠をもって批評している。

## 9. 学習指導計画（全3時間）

### ●言語活動充実のポイント

次	時	学習活動	指導上の留意点
I	1	1. オーケストラの音の効果を知る。 (クイズ形式)	○映画で使用されている音楽を聴き、どんな情景が浮かぶのか、どんな気持ちになったかなどを発表させ、興味・関心を引き出す。
		<div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin: 10px 0;"><b>オーケストラの響きと音楽表現</b></div> 2. 「ブルタバ（モルダウ）」のBの部分聴く。 3. 感じたことや気づいたことを根拠に発表し、意見を共有する。 4. ワークシート①に記入して提出する。	●どのような情景が浮かぶかなど発表させる。 ○鑑賞することにより楽曲のモチーフとなっているものを想像させる。  [評価の観点] <b>【音楽への関心・意欲・態度】</b> ・発言（観察） <b>【鑑賞の能力①】</b> ・ワークシート（確認）

<p>II</p>	<p>2</p>	<p>1. ワークシート①を返却し前時の復習をする。</p> <p>2. 標題ごとに聴く。</p> <p>3. それぞれの表題を形づくっている要素や構造と曲想の関わりや感じたことを発表する。</p> <p>4. ワークシート②に記入して提出する。</p>	<p>○知覚・感受した箇所を音で確認させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>音楽の雰囲気を感じ取り、なぜそう思ったのか考えてみよう</b></p> </div> <p>●標題ごとに、知覚・感受したことを自分の言葉で簡単にまとめさせる。</p> <p>●なぜそう思ったのか、理由をしっかりと書かせる。</p> <hr/> <p>〔評価の観点〕  <b>【音楽への関心・意欲・態度】</b>・発言（観察）  <b>【鑑賞の能力①】</b>・ワークシート（確認）</p>
<p>III</p>	<p>3</p>	<p>1. ワークシート②を返却し、前時の復習をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>背景となる文化・歴史と作曲者の思いを知る</b></p> </div> <p>2. 標題や、作曲者について学ぶ。  <b>【資料プリント】</b></p> <p>3. 自分が、作曲者の思いが一番込められていると思う場面を考える。  <b>【資料プリント】</b></p> <p>4. ブルタバ（モルダウ）のよさや美しさを味わって鑑賞し、批評文を書く  <b>【ワークシート③】</b></p>	<p>○知覚感受した箇所を音で確認させる。</p> <p>○当時の時代背景など説明し、作曲者の気持を考えさせる。</p> <p>○なぜ、その場面（標題）を選んだのかをじっくり考えさせる。</p> <p>○学習事項を踏まえ、音楽のよさや美しさを気づき、味わって鑑賞させる。</p> <hr/> <p>〔評価の観点〕  <b>【音楽への関心・意欲・態度】</b>・発言（観察）  <b>【鑑賞の能力②】</b>・ワークシート（確認）</p>

学習活動	指導上の留意点
1. 歌う場面を想定し、イメージをもって「校歌」を歌う。  2. ワークシートを返却し、前時の復習をする。	○しっかりと声を出して、雰囲気作りをするとともに、意思や思いを持って歌唱表現させる。  ○知覚・感受した箇所を音で確認させる。
<b>音楽の雰囲気を感じとり、なぜそう感じたのか考えてみよう</b>	
3. Bの部分で、音楽を形づくっている要素や構造と曲想の関わりや感じたことを発表する。  4. 標題（場面）ごとに聴く。 <b>【ワークシート②】</b>  5. 次の授業では、「ブルタバ（モルダウ）」の文化的背景を理解した上で、A～Gの表題の中で、作曲者の思いが一番込められていると思う場面を選び、感じたことや旋律の特徴について気づいたことを基に、批評文を書くことを予告する。	○どんな感じがしたのか。また、なぜそう感じたのか。音楽の要素や構造がどのように関わっているのか、気付くよう繰り返し聴かせる。  ●標題ごとに、知覚・感受したことを自分の言葉で簡単にまとめさせる。  ●なぜ、そう思ったか、理由（気づいたこと：根拠）をしっかりと書かせる。  ●根拠をもって発表しやすくなるようワークシート②を構成する。  [評価の観点] <b>【音楽への関心・意欲・態度】</b> ・発言（観察） <b>【鑑賞の能力①】</b> ・ワークシート（確認）